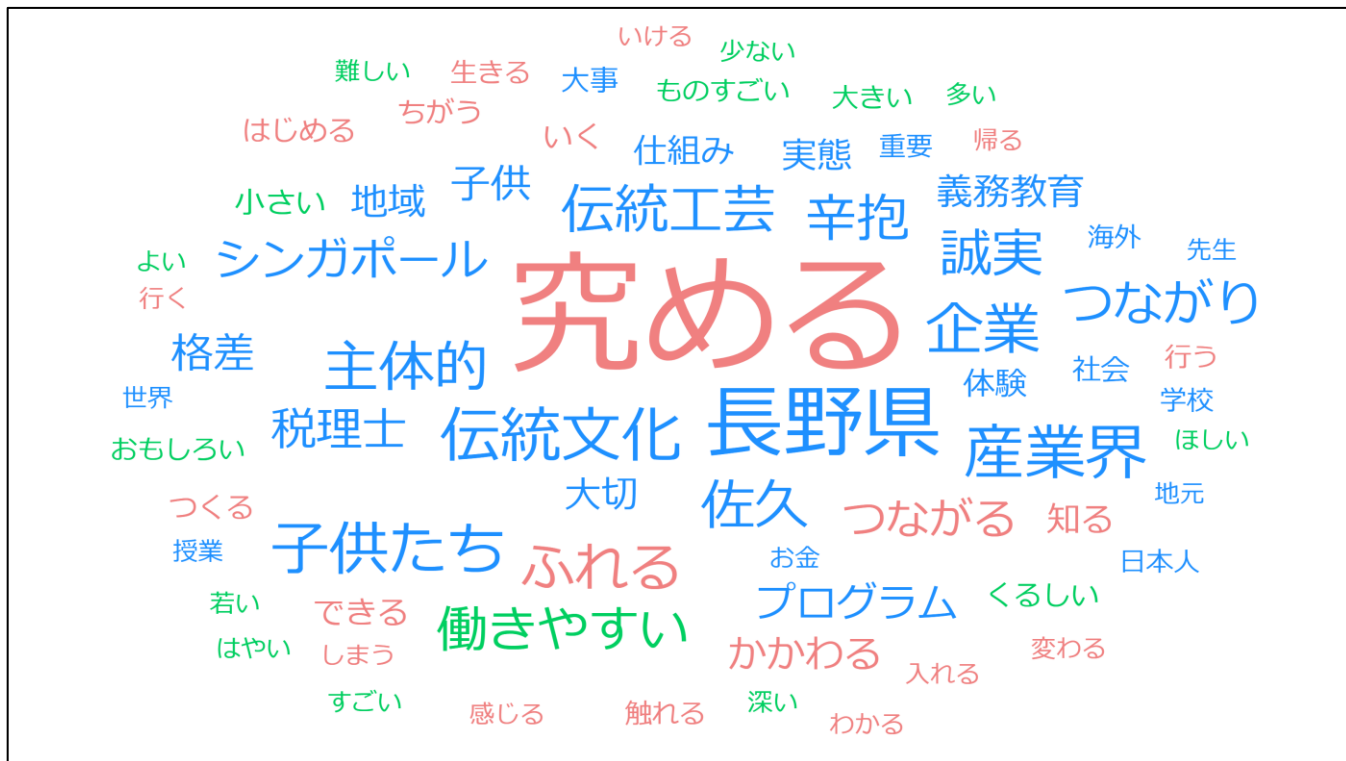


ファシリテーター：渡邊産業政策課長 記録：下條主任指導主事

牛越委員、更級事務局長、白鳥委員、松本教育次長

1 テキストマイニング

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。



ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

2 ディスカッション要旨 ※本要旨は、Microsoft Copilot の支援を受けて作成しています。

(1) 地域と世界をつなぐ教育の必要性

子供たちはインターネットを通じて世界とつながっているが、実体験が不足しがち。

「知ったつもり」ではなく、「本物に触れる」体験を重視。

グローバルな視点と地域資源の理解を両立させる教育が必要。

(2) 教育格差とチャンスの平等

経済格差が教育機会に影響している(6人に1人が貧困)。

義務教育の中で、すべての子供に平等な体験の機会を提供することが重要。

経済的に厳しい家庭の子供も参加できる仕組みづくりが求められる。

(3) 地域企業との連携とキャリア教育

地元企業を知ることが、地域への愛着や将来の選択肢につながる。

「佐久メッセ」など、企業と子供が直接ふれあう機会が好評。

子供が主体的に企業と関わる体験(アポ取り、交渉など)を通じて社会性を育む。

(4) 伝統文化・地域資源の再発見

長野県内の伝統文化(和紙、踊り念仏、御柱など)を体験することで、地域の誇りを育てる。

海外に行く前に、自分の地域を語れるようになることが大切。

(5) 主体性と異年齢交流の重要性

教員や親が手を出しすぎず、子供が主体的に動ける環境を整える。

異年齢での活動や、子供同士の協働が学びを深める。

「用意されたプログラム」ではなく、子供が自ら関わる体験が深い学びにつながる。

(6) グローバル体験と地域のバランス

海外体験で子供が大きく成長する。

ただし、地域の企業や文化を知ることと同様に重要。

地元と世界、両方を知ること、子供たちの視野が広がる。

3 ディスカッションの記録

長野県の人材

世界とのつながりなしでは成り立たない

地域資源の大切を感じてほしい

もし中学生だったら行ってみたい 育てていきたい

今の子供の環境 インターネットが完備されている 世界と自然とつながってってしまう そういう中で

行ったつもりになっている 短絡的になりがち

データを整理、再構築できているか AIに入れて答えとしていないか

学校では体験重視 知ったつもりにならないようにしていきたい

相手と話して分かるようにしたい

格差の問題が大きい 経済格差が大きい 生活環境がそもそもちがう

どの子にもチャンスがあるということが大切

地域の企業を早い段階から知ってほしい

出張先生 中学に出向いて企業で実際に何が行われているのか伝えたい
県外に行った子供たちが戻ってこない
親が企業を知らないといけない
子供と産業界を近づけていきたい
採用しても辞退される方が多い実態
企業改革の中で働きやすい職場をつくりたい
グローバルな視点 問題発見 タフな精神力 すべて企業につながる
県内で働ける仕組みをつくっていきたい
子供と産業界、win-win になるように
地域の困りごとの中に、子供たちの格差が大きくなっていることがある。6人に1人が貧困
義務教育の重要性 格差があっても同じ教育を受けることができる ここをのがしてはいけない
人間としての基本を 日本人としての誠実な心 誠実さが重要
長野県教育 誠実さを基本としたい 究めたい この時代は究めることが重要
海外から留学生が来ている 子供同士の交流を進めたい 外国に行く前に触れることはできる
教育委員会として不透明な時代を生きるために 基礎学力と課題解決能力を身に付けた人材が育ってほしい
本物に触れてほしい
SNSの社会の中でいかに地に足のついた生き方ができるか 島国なので日本の国だけで完結してしまう
これからはボーダレス 海外からも多様性が増してくる
そういう中で、子供たちがどう生きていくのか
国内だけの活動や体験のみでは難しい
学校の枠を超えることが大切
この事業なかなかお金が工面できるか心配
教育格差が顕著になっている 経済が苦しい家庭の子供たちがこういう機会に参加できる仕組みがあると
よいと思う。

どういう体験 学びが必要か
地域を知る
誠実さを究める
本物を知る

佐久メッセをはじめた 子供が地域を知らないで地域を離れていく 子供たちが市のバスで 企業 100 社
若い社員が子供に説明する 授業で行った
子供も先生も高評価 子供の目が輝いていた
今やらないといけない 小さい頃に、工場を見てすごいなと思ったのがはじまり
近くの会社を知ってからが大切
義務教育は全員が同じことができる。全員にチャンスを提供する。分け隔てなく
Astra! 15 人ですが、そのうち多くの子供たちが体験できるように
いつか、企業の大見本市ができる
シンガポールも大事だが、地元の企業を知ることが大事
地元の企業を知るとは貴重なこと。実態を見ることは、考え方を変えていく
小さいときから、社会を分けることが大切
プログラムは、おもしろい分野
会計士 税理士が金融ではおもしろいか
税理士はお金のしくみ、税の仕組みをしっている
100 円使ったときに、それがみなさんのお給料になっている、小さいときにお金の循環を知ることができる
小さいときに、お金をつかうことが社会のためになっているということを知ることが大切
今、キャッシュカードになってしまった
電子マネー お金のありがたみを、子供が感じられない
職場体験 1日から3日 長ければ1週間
地元の企業を訪問していた
コロナでとまってしまった
企業の受け入れが難しかったら、学校に来てもらうようになった。体育館にブースをつくってやっている
学校で体験をさせていただいている
子供たちが相手の企業さんと交渉することをできるだけさせようとしている。人とのつながりができて、
当日も玄関先でお迎えしている
人とどうつながるか ということを大切にしている
人とのつながり ○○さんとお話できる、人の顔がみえる、人とかかわることを大切にしたい
人とかかわった魅力、人の魅力を感じられるものにしたい
実行委員会が用意したことを「どうぞ」だと、深められないのではないかな。子供たちが集まって、子供たちが
アプローチしていくと、深まっていく。深いつながりを

ものすごく手間がかかるが・・・

アポをとる 大人の世界ではあたりまえだが 子供には大冒険 そういうことが、未来の社会につながっていく

用意されたプログラムだと、ベルトコンベアーにのったようになってしまう

子供が主体的になれるプログラムを大事にしたらいいのではないか

ブラジルに1年間行って帰ってくると、ものすごく変わる

キラキラしてくる びっくりする 変わります

行く前めそめそしていた子が、自信をもって帰ってくる

シンガポールに行っても、多国籍国家 基礎的な勉強をしてから行ったほうがよいのではないか

白馬とシンガポールの交流 現在、高校

小中にしたり、継続したりすることを大切にしたい

目的が近視眼的になる部分はある 10 年先をみることができるか

外国の方が増えてきた インバウンドで

高遠の子や長野の子が桜や善光寺を英語で紹介

慣れてくればできる

長野県のよさの再発見

長野県伝統工芸、伝統文化のよさに触れることが、プログラムの中に位置づけることが重要

諏訪では御柱

子供の興味関心にヒットすれば、続いていく

授業の中に溶け込むような体験、生きた授業

飯山 和紙をすく 佐久 踊り念仏

下伊那 歌舞伎 子供が少ないから、自然と子供が受け継いでいく 子供も学校も一生懸命やっている

地域の中では知っているが、長野県の中の伝統工芸、伝統文化を知らない 海外に行ったときに、長野県のことを説明できないのではないか

長野県のよさを知るところからはじめたい

海外に行くと

「どこの出身だ」「宗教は」と聞かれる。日本人の感覚とちがう。日本人は、配慮しないで生きてきている

つくば 単に見学に終わらせないようにしないとイケない。学校の反省は先生が手を入れれば入れるほど、

子供たちはお客様になってしまう。先生がやりすぎちゃうと、子供はいやになってしまう。辛抱が大事
主体性、自主性を伸ばすことが大事。(大人は辛抱 辛抱が大事)

親はどうしても手を出してします。辛抱が大事

異年齢でやることが大事。主体的にやることが大事